

株式会社ジェイコムさいたま 北局 南局
2014 年度(平成 26 年) 放送番組審議会 議事録

2014 年度の放送番組審議会は、2015 年 3 月 25 日(水)にさいたま市内で開催された。

<放送番組審議会委員>

ご出席 (五十音順)

宇 高 良 哲 様 内 木 滋 郎 様 大 島 清 様
斎 藤 陽 子 様 清 水 志 摩 子 様 平 沼 大 二 郎 様
守 屋 二 郎 様

ご欠席(委任状提出)

高 梨 邦 彦 様

事業者側から J:COM 新サービスの報告及び J:COM チャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】(平沼会長による進行)

1. 地域ニュース番組『たまスタ 7Days』に関する審議

(取り上げる記事内容)

委員 地元紙・埼玉新聞とのコラボはいい。1 面以外の紹介もあるのか。

事業者 1 面は必ず 1 週間分を紹介しており、地域面、社会面も気になる記事は J:COM でも取材をして、お伝えしている。

(埼玉ネタに限定しないニュースの拡大、語学熱を反映させた新コーナー)

委員 その時々で大きなニュースがあれば、埼玉ネタや埼玉新聞に限らなくていいのではないか。県外のニュースであっても、生のニュースを流して欲しい。

2020 年のオリンピックに向けて、今は語学熱が熱い。ちょっとした“今日の英語”コーナーとして、さいたま市内を歩きながら、お店などいろいろな場面で、英語で一言を伝えるのはどうだろうか。NHK Eテレの『大人の基礎英語』は、参考になるのでは。

(番組台本のチェック)

委員 番組は、事前に内容(台本)のチェックはあるのか。第三者的なチェックは、必要である。個人的な主観が入り込む余地はないということで理解していいか。

事業者 2回のリハーサルを通して、原稿内容を細かくチェックし、本番に臨んでいる。

(大手紙で取り上げないローカル情報)

委員 ローカル性をもって、きめ細かい記事があった方が面白い。大手紙にはない。

事業者 情報収集の深さ、正確さが重要である。赤丸チェックの映像取材は、この取材対象が新聞に掲載されるであろうと予測しないと、取材対象の旬の時期が終わってしまう。新聞社とも密に連携を取っているが、新聞に載るものを映像化する難しさがある。

(地域特派員制度の活用)

委員 地域特派員やモニターの形を取って、予め各地域で特定の対象に興味のありそうな情報提供者にお願いしておいて、そこから上がってくる情報を掴むことは効果的である。上がってきた情報を必ずしも全てを取り上げる必要はなく、こうした情報提供が好きな方は必ず地域にいらっしゃる。

そうした方々とパイプを持っておけば、エリアが広がれば広がるほど、必ずしも高い費用がかからずに情報収集が可能である。スポーツ映像でも同様に J:COM から撮影スタッフを派遣することは大変だが、指導者や関係者からの撮影、情報提供を受け、J:COM 側で編集することができれば、中小様々な大会の映像を扱うことが出来る。

(新聞社の特派員制度)

委員 埼玉新聞は、各地域に女性の特派員(タウン記者)がいて、グルメなど地域ニュースを拾ってもらい情報収集している。時間のあるシニアの方が多い。

(語学学習のコーナー化)

委員 埼玉新聞の購読者は限られており、こうした地元紙との地域密着番組は有難い。市内には英語だけでなく、スペイン語、中国語などを話す方も多く、簡単なフレーズが学べる語学学習コーナーは役立つかもしれない。

事業者 さいたま市では、様々な外国の方が増えており、子育て用ハンドブックの言語も多岐に渡っている。ニュースの時事ネタに絡めて、語学の学習コーナー化も検討してみたい。

(商店街情報の活用、プレミアム商品券の周知)

委員 商店街では、事務局に事前連絡をいただければ、取材を通して早めの情報提供ができるので、うまく活用してもらいたい。

国の施策のプレミアム商品券の展開方法は、各地で実施内容が異なるので番組内でも事前に周知していただきたい。

事業者 これから始まるデイリーニュース生放送でいち早くお届けしたい。

2. ドキュメンタリー『農家レストラン菜七色ランチタイム』に関する審議

(番組に好感)

委員 番組取材対象の方には、共感を受けた。面白い。良かった。

(食事中のマナーの苦言)

委員 料理が美味しそうに見えなかった。また、MC の箸の持ち方は気になる。綺麗に持ってもらいたい。食レポ(食事レポート)では、食べる時、話す時にはその人の人格が出やすく、気になる箇所があった。

(交通アクセスの案内不足)

委員 お店の場所は、交通の便があまり良くなく、クルマで行く処かと思うが、駐車場の説明がなく、店に行くにはどうやって行けばいいのかと感じた。

足の便や駐車場をセットで案内をしてあげないと、テレビ放送の説明としては不親切ではないか。

事業者 ドキュメンタリー番組として、本来であれば、女性店主の若い頃からの思いを写真などから振り返り、家族との関係や人生を描ければ良かった。

残念ながら、ご本人の意向もあり、そこまでの紹介が出来なかった。タイトルの付け方も、もっと工夫が必要だったかもしれない。

(ドキュメンタリー番組の継続を)

委員 番組の中身としては、面白い。次のステップでは、どういった人物のものを取り上げるのか、楽しみである。今後も続けて欲しい。

事業者 地域に密着し、且つ埼玉の良さを表現できる人物にスポットを当てたこうしたドキュメンタリー番組は、継続して制作していきたい。

(内容の深掘りを)

委員 番組尺は長いと感じた。もっと深く掘り下げて欲しい。

(県内の名工職人、観光分野への取材も)

委員 県内には名工と言われる職人が各分野に大勢いらっしゃる。こういった方々にも取材して欲しい。また、埼玉県は、観光面が弱いので、観光客を呼び込むように県の魅力を発信してもらいたい。“日本一”の分野もたくさんある。

(取材ジャンルの絞り込み)

委員 取材ジャンルを決めて番組化するのもいい。

(うどん文化の継承、市図書館の利用方法)

委員 埼玉県には、薄れつつある「うどん文化」があるが、自宅でのうどんの打ち方を食文化として映像でも残して欲しい。

また、“箱もの行政”の変化に伴い、県内の図書館が減っている。そうした中で、さいたま市の図書館はユニークで頑張っている。さいたま市図書館の利用方法を解説付きでテレビで案内してもらいたい。

報告事項(事業者)

昨年 12 月に、当社が自主放送しているCS番組「スペースシャワーTV」内で、番組自主基準に抵触する映像手法(光点滅)が用いられていたことが判明し、放送法に抵触するものとして、2月27日付で総務省より行政指導を受けた旨の経緯および内容説明を行った。これを受けて、当社の再発防止に向けた取り組みを報告した。

委員からは、特に質問事項はなかった。

以上